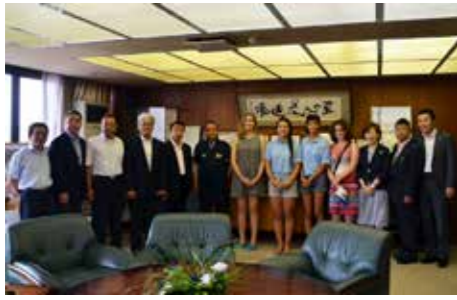


**伊予三島・川之江ロータリー
クラブ青年留学生が本市を訪問** 7/12 (火)



本市でホームステイをする伊予三島・川之江ロータリークラブ青年留学生が、市長を表敬訪問しました。青少年留学生短期交換事業で訪れた留学生たちは、日本の高校生や書道のことなどについて話し、市長は「日本の生活様式を勉強しながら、さまざまな体験を楽しんでください」と話していました。

ウエスタン JVC 男子が全日本バレーボール小学生大会に出場! 7/13 (水)



ウエスタン JVC 男子 (戸田高志監督) の選手たちが、全日本バレーボール小学生大会への出場報告のため、市長を表敬訪問しました。主将の加地正陽くん (川之江小6年) は、「全日本大会では、みんなで楽しく思いっきりプレーしたい」と大会の抱負を元気よく発表しました。

**~土居高校から土居中学校へ~
花いっぱい運動検証実験** 7/4 (月)



土居中学校で、えひめ国体に向けた花いっぱい運動検証実験 (花のリレー) が行われました。これは、土居高校の生徒が種から育てた苗を土居中学校の生徒が引き継いで育てるもので、国体推奨花のサルビアの苗を、高校生の指導を受けながら植え替えました。

**伊予三島リトルシニアが
日本選手権大会に出場!** 7/5 (火)



中学生の硬式野球チーム・伊予三島リトルシニア (安藤賢監督) の選手たちが、日本選手権大会への出場報告のため市長を表敬訪問しました。主将の後藤陸人くん (三島西中3年) は、「チームの士気を高め、日本一になれるよう頑張ります」と力強く話していました。

**~色とりどりのあじさいが咲き誇る~
嶺南あじさい観賞会** 6/26 (日)



富郷町の下長瀬あじさい公園で開催されたこの催しは、嶺南あじさい会 (岩崎健寛会長) が丹精を込めて育てたあじさいを観てもらおうと毎年行われています。会場には約3,000人が訪れ、遊歩道を散策したりして、見頃を迎えた色とりどりのあじさいを楽しんでいました。

**~山を彩る約2万株のあじさい~
新宮あじさいまつり** 6/26 (日)



新宮町上山の中野地区にあるあじさい園で、恒例の新宮あじさいまつりが開催されました。県内外から訪れた多くの観光客は、モノレールからあじさい園の景色を眺めたり、地元の特産物などを販売するバザーで買い物を楽しんでいました。

**市スポーツチャンバラ協会の
7選手が全国大会で入賞!** 6/27 (月)



市スポーツチャンバラ協会仁武館 (河村直仁代表) の7選手が、第1回田邊哲人杯争奪戦大会での入賞報告のため、市長を表敬訪問しました。大会の各部門で準優勝または3位の好成績を収めた7人は、それぞれ大会の感想や今後の目標を話していました。

**~犯罪や非行のない地域社会に~
社会を明るくする運動啓発パレード** 7/1 (金)



市役所周辺で社会を明るくする運動の啓発パレードが行われました。庁舎前広場で、東保育園の園児による鼓隊演奏などの出発式が行われた後、18機関・団体が構成される市推進委員会の約180人が、犯罪や非行のない社会の実現を目指す活動の推進を呼びかけました。

**三島南幼稚園児がヒラメの
稚魚約3,000匹を放流** 6/14 (火)



寒川豊岡海浜公園で、ヒラメの稚魚の放流が行われました。これは、稚魚を放流することで、ふるさとの海として子どもたちの心に残ることを願い行われたものです。参加した28人の園児は「元気で大きくなってね」と声をかけながら、バケツに入った稚魚を放流しました。

**全日本少年少女空手道
選手権大会に出場!** 6/16 (木)



敬心館 (武村敬介館長) の近藤巧実くん (土居中1年) が、第21回全日本少年少女空手道選手権大会への出場報告のため、市長を表敬訪問しました。大会に向けて近藤くんは、「優勝できるように頑張ります」と力強く抱負を話しました。

**市障害者福祉団体連合会
スポーツ交流大会** 6/19 (日)



伊予三島運動公園体育館で行われた大会では、障がいのある方々がフライングディスクやスマイルボーリングなど5種目のさまざまな障がい者スポーツ競技を体験しました。参加した約100人は、気持ちの良い汗をかきながら親睦と交流を深めていました。

**~日本語教育などを指導~
JICA ボランティア事業に出発** 6/23 (木)



渡邊網太さんと鈴木真実さんが、JICA (国際協力機構) ボランティア事業への出発報告のため市長を表敬訪問しました。渡邊さんはモンゴルで1年8か月間、小学校教員としての指導を、鈴木さんはブラジルで2年間、日本語学校で日本語教育や日本文化の指導を行います。

暑い最中、参議院議員選挙が行われた。結果は、本市にとっても、愛媛県にとっても、篠原個人においても、順当な結果になったと思っている。

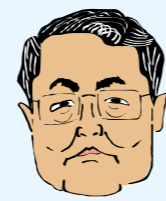
そんな中、選挙の結果は別にして、何点か気にかかることがあった。

まず、国・県・市町においては、それぞれの立場はあるが、地方自治体においては、共通項をしっかりと見つけて、団結する必要がある。もし、各自自治体が国家国民の生命財産の保全安心に関わるような事態になれば、それぞれの自治体で競争競争している場合ではなくなる。ましてや、憲法の問題は、特に考えておかなければならないと思う。一部の論者のように、憲法の問題になれば議論すら拒否してしまうような姿勢では、現実に行っている自治体の諸問題に対応できなくなる。あるべき法律の法律として、憲法を国民生活・国際社会の中で我が国の外交防衛に沿って、議論するのはあたりまえのことではないだろうか。

一方、今回の選挙で、さまざまな団体がそれぞれの信条のもとで応援活動を行う中、労働組合が応援活動の最前線に立っている光景を目にした。私自身、思想的に組合活動には親近感すら覚える方ではあるが、労働者の権利を守り、進展させるには、地域社会にあって、もう労働組合も社会的存在であるとの自覚があるのではと思っている。

また、今回の選挙から、新しく18歳からの選挙権が設けられたが、民主主義において選挙とはどういう意義を持つのか、原理主義的に、もう少し学習する機会があってもいいのではないかと思う。いざにしろ、もろもろのことを考えさせられた夏の陣であった。

**市長の
ひとりごと**



四国中央市長
篠原 実
テーマ
参議院議員
選挙

